

せいけん
詩集

第二十二篇

作：近藤せいけん

「行ったり 来たり」

私わたしはいつもの田たんほの小路こみちを歩あるく

今いまは秋あき やつと涼すずやかな風かぜが頬ほにかかる

周りまわりは黄金色おうごんいろの稲穂いなほが揺ゆれる

すずめ達たちが忙いそがしそうに飛とびかう

赤あかトンボも群むれている

私わたしは大山おおやまにかかる雲くもを見み上げながら

小路こみちを行いったり来きたり

何なにもするわけではない空くう気に溶とけ込むのを

楽たのしんでいる

田たんほにやくって来くるすずめ達たちを

追おい払はらうボンんという大おおきな音おと

一いつ斉せいにああわててすずめ達たちが飛とび去さる

黄金色こがねいろの稲穂いなほが揺ゆれる

頭上ずじょうに來きた雲くもを見み上げる

田たんほの小路こみちを行いったり来きたり

何なにもするわけではない空くう気に溶とけ込むのを

幸しあせだと思おもっている

